

くすのきの郷でのボランティア活動について

先日来マスコミにて、くすのきの郷と当協会との関係が報道されておりますが、当協会としては次のような思いであります。

相互補完の助け合い

*当協会の活動のひとつは日比の相互支援活動です。日本とフィリピンが互いに弱いところを認め合い相互補完する助け合い活動です。

*日本フィリピンボランティア協会はその前身を含めると85年からフィリピンの日系人とかかわっています。はじめは貧困下の生活を強いられているフィリピン日系人の教育支援からでした。

*次にフィリピンの日系人と共にフィリピンの課題(貧困から生じる子供の教育・福祉、環境問題など)に対して日本からフィリピンへのボランティア活動でした。

*21世紀に入ってからは、日本の課題にフィリピンから力を借りる相互支援活動を組み込みました。

高齢社会の課題

*当協会が取り上げている日本の課題は高齢社会の様々な問題です。フィリピンと連携するとうまくいところが多いのです。

フィリピンと何を連携させるか、

1、日本の高齢者の元気を長続きさせるための連携

日本の高齢者のいきがい作り、充実感、役に立つ喜び、これはフィリピンとの関係でうまくいくことが沢山あります。Give And Takeの実践活動を各種展開

2、若干介護の必要な方たちのフィリピンへの短期・中期の滞在。

これはすでに実践しています。在宅介護の方たちに喜ばれています。

3、日本の介護現場で一番厳しいところへのボランティア派遣

「くすのきの郷」の例です。ただし重要なところは、あくまでも相互助け合いです。人手が不足しているからボランティアを派遣することでしたら、単なる人材派遣です。これは当協会の活動ではありません。(当協会は創立当時から就労斡旋はしない)。

くすのきの郷が日本フィリピンボランティア協会の活動を支援している、だから日本フィリピンボランティア協会はくすのきを支援することです。

くすのきの郷からは介護の体験学習を提供して頂いている。フィリピン人を受け入れたときの受け皿の条件整備のありかたの研究、教材作成、当協会への資金面での協力、フィリピンへ介護面での情報提供、人材の育成(上記の1・2で役立っている)等々

くすのきの郷による先駆的な取り組み

この5年間で日比の介護問題で先駆的な取り組みをし当協会を通じて日比の様々な分野に情報を提供をしている。(経済連携協定(EPA)準備の審議に当たって協力、経済連携協定(EPA)発効時の日本語研修機関である海外技術者研修協会(AOTS)の資料作りへのくすのきの郷による協力、教科書『介護の日本語』作成など)

*くすのきの郷は今後日比の間で問題になるであろう、様々な問題に先駆的に取り組んできました。日本にとって必要な活動でした。それだけに残念な気持ちでいっぱいです。勿論この活動によって、私が金銭的に収益を上げていることはまったくありません。金銭的、精神

的にかなりの負担をしていますが、私も日本にとってこの活動が必要だと思い、大変ご迷惑を掛けたくすのきの郷に、ボランティアとして当協会のスタッフをお願いし、育てていただきました。
残念なことです、結果的に多くの方にご迷惑、ご心配をおかけしたことを申し訳なく思っています。

2007年5月1日

NPO法人

日本フィリピンボランティア協会

会長 網代正孝